

第8回 市民と議会のつどい（総務常任委員会の部）

会議録

日 時 令和6年5月18日（土）午前10時開会

場 所 宇治市役所議会棟第3委員会室

主 催 宇治市議会

1. 開会

■西川 友康 広報委員会委員長（以下「司会」）

皆さん、おはようございます。

本日はお忙しい中、第8回市民と議会のつどいにご参加いただきましてありがとうございます。私は、宇治市議会広報委員会委員長の西川友康でございます。

平成24年から行っております市民と議会のつどいでございますが、今回で8回目の開催となります。新型コロナウイルスの影響で開催を見送ったこともございますが、宇治市の未来について語り合う場を議員全員で相談、模索いたしまして、今回は、対面で4つの常任委員会ごとにテーマを設けて実施することにいたしました。

委員会からの推薦によりご参加いただきます皆様には、この場をお借りいたしまして感謝を申し上げますとともに、開催案内をご覧になり申し込んでいただいた皆様にも、心よりお礼を申し上げます。

今回のつどいでは、ご参加の皆様と宇治の未来につきまして多くのご意見を伺う機会として、有意義なつどいになればと思っております。運営上、何かと不行き届きな点もあるかと思いますが、何とぞスムーズな進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

また、開催に当たり、各常任委員長をはじめ委員の皆様におかれましては、テーマの選定や開催方式など、各委員会で検討、調整をいただき、ありがとうございました。

それでは、開会に当たりまして、宇治市議会議長、松峯茂がご挨拶申し上げます。

2. 議長挨拶

■松峯 茂 議長

皆様、おはようございます。

ただいまご紹介をいただきました宇治市議会議長の松峯でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、第8回市民と議会のつどいにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。開会に際しまして、議会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段のご高配、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。宇治市議会では、市民の皆様の意向を的確に反映し、市民に開かれ、信頼される宇治市議会を築くため、そして、市民福祉の向上及び市政の発展に貢献するため、宇治市議会基本条例を平成23年に制定いたしております。その条例の趣旨にのっとり、宇治市議会の活動を知っていただき、議員が市民の皆様と意見交換をさせていただく場として、この市民と議会のつどいを開催させていただいております。

今回のつどいは、4常任委員会ごとにテーマに基づき意見交換するという手法を取らせていただきました。市民の皆さんからいただきましたご意見を基に、宇治市議会では、今後も宇治市の明るい未来を築くため議論を重ねてまいりたいと考えております。

本日は大変短い時間ではございますが、実り多い意見交換の場となりますことを祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

■司会

では、ここからの進行は、総務常任委員会の岡本委員長をお願いいたします。岡本委員長、よろしくお願いいたします。

3. 意見交換

■岡本 里美 総務常任委員会委員長（以下「進行」）

皆様、おはようございます。

総務常任委員長の岡本里美でございます。

本日、これから11時30分まで、私どもの委員会は、災害に強いまちづくりをテーマに意見交換をしていただきたいと思います。

災害に対しまして、ご自身での備えや行動、また、地域や町内会としてのお取り組みなど、市民の皆様には大変ご協力をいただいていることが多くございます。本日、意見交換をさせていただき、皆様の前向きなご意見を基に、今後の災害に強いまちづくりとしての

取り組みにつなげてまいりたいと思います。

始めます前に、本日は、触手話を利用されておられる方が来られております。ゆっくりお話しいただきますようご協力お願いいたします。

それでは、まず初めに、総務常任委員会の委員を紹介いたします。（紹介）

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日の意見交換に際しまして、あらかじめ委員会より参加をお願いしておりました方々をご紹介します。（紹介）

本日のつどいの流れでございますが、初めに、ただいまご紹介いたしました3組の方々からそれぞれ7分程度で活動内容を述べていただきます。その後、公募にて申込みされました方でご発言を希望される方に、挙手をしていただきまして、お住まいの地域、お名前をおっしゃっていただいてからご意見を述べていただきたいと思います。

また、限られた時間となっておりますので、意見交換のお時間を制限させていただくことがございますが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

そして最後に、皆様からのご意見を受けまして、各委員から意見を述べさせていただきますが、本日の市民と議会のつどいは、皆様のお考えや思いをお聞かせいただき、貴重なご意見として、今後の市政運営に対して議会での取り組みにつなげてまいりたいと考えておりますので、この場で明確なお答えをさせていただくということではございませんが、ご了承いただきたいと思います。

それでは、初めに、推薦者①様、よろしくお願いいたします。

■推薦者①（町内会・自治会 元役員）

今日はよろしくお願いいたします。

では、僭越ではございますけども、一市民としての意見と、防災に関する意見ということで述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

私のテーマは、デジタルの活用についてということで発表させていただきたいというふうに思います。ちょっと前のほうに簡単に資料は用意してるんですけど、ちょっと小さくて見えないかなというふうに思いますので、主には口頭で説明しながら発表させていただきます。

私は、今、京都のあるメーカーの人事の部門で働いてるんですけども、仕事内容として、デジタルを活用して、例えば社員間のコミュニケーションとかあるいは連携とか、そ

ういうのを高めて、会社の発展とか社員が働きやすいとか、そういう環境づくりというのを推進してる部署でして、社内の、例えば簡単に言うとフェイスブックみたいなものとかを自分たちでつくったりして運用したり、そんなことをしておりまして、今回こういうお話をいただいて、自分が考え得ることということでちょっといろいろ考えてきたんですけども、今回、災害のテーマということですので、自分の身に災害が起こったときという自分事で考えてみたんですけども、やっぱり一番は、死なないことというのがやっぱり災害においては一番大事なかなと思います。

死ななければ何とかなるというふうには思うんです。死んでしまったらもう何もならないんですけども、まずは死なないことということを前提にすると、何が必要なのかというと、やっぱり自分の身は自分で守るという意識ですとか、その備えが十分できてる状態をいかにつくれるかというところかなと思っております。

そういうアイデアを基にちょっと考えたんですけども、ただ、自分の命は自分で守るのは大前提と言いましたが、ここは宇治市の取り組みの中の一つですので、やっぱり公助というのはそもそも大前提と、公助をなくしてという意味ではなくて、公助は大前提として、じゃ、自助をどうするかというところを考えてきたんですけども、なので、とにかく死なないということを大前提にしたときどういうアイデアが出せるかというところなんですけど、デジタルの活用というところで、何か防災アプリみたいなのを宇治でつくれないのかなというふうに思っております。

今回の話をいただいたときに、ぱっとネットとかで、どんな防災の取り組みが各都道府県とか市町村であるのかなと思って見たんですけど、宇治ってそういうの、独自のものも含めてあまりないのかなというのが私の第一印象でした。なので、まず、そういうアプリ系というのをつくって見たらどうかなと思ってます。

上（ディスプレイ表示資料）のほうにアプリ登録者の増加みたいな、括弧書きで、赤枠で書いておりますけども、まず、防災の意識を高めるようなアプリをつくって、ちょっと右（ディスプレイ表示資料）のほうにいくんですけども、そこで登録してくれた人に、防災に関するアンケートとか、防災情報とか防災グッズ、どういう備えをしなきゃいけないのか、どういうものを買わなきゃいけないのかみたいな情報を流していくと。アンケートでは、例えば、水を備蓄してますかとか、食料の備蓄はありますかとか、あるいは家具とかをちゃんと固定してますかみたいなところというのをアンケートとかで聞いていくと。

そうすると、右（ディスプレイ表示資料）のほうですけど、防災に関する近隣住民間の

日常のコミュニケーション機会が増加していくのかなというふうに思っております。例えば、自分と自分以外の誰かの防災準備率の違いが分かったり、そうすると、みんなやってくるのに私はまだ水を買ってないわとか、そういう何かいい意味での不安感というのをつくっていったって、みんながやってるんだったら私も買わなきゃみたいな、ちょっと日本人のいいところ悪いところですけど、良くも悪くもみんながやってるから私もやらなきゃみたいな意識を醸成できないかなと思っております。

そして、下（ディスプレイ表示資料）のほうですけど、防災意識と防災グッズの準備率というのを実質的に上げていくということをする。そこで、市のほうでは、じゃ、それをどうやって活用するのということですけども、左（ディスプレイ表示資料）のほうにいきますけど、役所による市民の防災関連データの分析とか活用というところをやったりやっていくべきなんじゃないかなと思っております。

何か大災害が起こったときに、一人一人の住民が、あるいは地域ごとに見たときに、どのぐらいの人がどのぐらいの物を準備しているのかは、多分、今、把握できてないはずだと思うんです。そんな聞かれたこともないですし、そういうのを市として把握すると、何かやっぱり有事のときに的確に、じゃ、どこにどういう物をより多く届けたらいいんだとかという優劣とかというのをつけれるのかなというふうに思っております。

そういうのを、どんどんデータを蓄積していったって、アップグレードしていったって、よりよい情報をまたアプリのほうに流していくと、また上（ディスプレイ表示資料）に戻って、このアプリって使いやすいなとか役立つなということで、またアプリの登録者が増加していったって、市の中にいい循環というのが生まれてくるのかなと思っております。

ただ、これってつくるのに多少のお金は多分かかると思うんですけど、右上（ディスプレイ表示資料）のほうにちょっと書いてるんですけど、結局、データというのは活用しなきゃ意味がないですし、なおかつそのデータって、たまればたまるほど有益なデータになっていきますので、そういうのを民間事業者だとか、あるいは公的な統計機関ですか、そういうところに売るという作業をすることで、そのアプリ代を稼ぐといいますか、市としてもマネタイズをしていくという新しい取り組みができるんじゃないかなと思っております。

そうすると、民間企業ないしは公的統計機関というところが、さらにいい情報を市民のほうに送ってくれるという形ができてきて、市民の中でも防災意識が高まるし、それが発展すると、市の外からも情報が入ってきて、いい循環、デジタルと、あと住民間コミュニケーションのアナログの部分が発展するかなというふうに思っております。

以上です。私の意見は以上となります。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。

次に、推薦者②様、よろしくお願いいたします。

■推薦者②（宇治市消防団）

何分こういう場、不慣れなものなので、皆さん、最後までお聞きください。

では、宇治市消防についてお話しさせていただきます。

現在、宇治市消防は、消防本部と消防団という2つの団体があります。消防本部は、職員が火災とか救急の通報があったときにすぐに出動できますように、いわゆる消防署に待機している団体になります。いわゆる、皆さんがご存じの消防士さんになります。

一方、団のほうは、日頃は宇治市内に住んでいて、もしくは仕事をここで、宇治の中でやっている、そういう人たちが集まりまして、いざ災害があったときに消防団員として出動対応をするという形になっております。

その役目は、いわゆる消火活動のみならず、地震、風水害等の大規模災害があったときに、救助・救出活動並びに災害・防御活動等、重要な役割を果たさせていただいております。一方、平常時には、防火指導、緊急対応指導、巡回広報、特別警戒等を行い、いわゆる地域における防災力、消防力の向上を目指した活動をしており、団体になります。

消防団の前身は、皆さん、テレビとかで江戸のまち火消しというのが出てくるシーン、よくあると思うんですけども、一応そのまち火消しが消防団の前身に当たります。宇治市制が始まる26年3月より、そのときに既に宇治町、槇島村、小倉村、大久保村、東宇治町の2町3村に既に存在をしておったんですけども、同年の8月、宇治市消防団として、合併に伴い461人でスタートをしております。

72年たった今でも、各5つの地域には分団が配置されており、新たに女性消防団のあさぎり分団を含め6分団で、現在、構成されております。また、階級のほうなんですけれども、団長から団員まで7階級に分かれておりまして、命令伝達機能がスムーズに行われますよう、いわゆるピラミッド型の組織として運営されています。

ここで、日頃の出動や訓練を、ちょっとスライドにて発表させていただきたいと思います。一番左（ディスプレイ表示資料）は、放水してるところです。こちらは山林火災訓練

といいまして、いわゆる山火事があったときに、山、坂のきついところ、山奥で細くて厳しい状況でも消火活動ができるようにホースを延長しまして、ホースを延長していくと圧力がだんだん下がってきますので、各分団の持っております小型ポンプを連結中継し、消火活動をする訓練の模様です。

真ん中の写真（ディスプレイ表示資料）は、実際、昔、南山城豪雨災害のときの救命ボートを使っただけの救助活動になります。このときは膝上ぐらいまで水がつかって、大変な被害になったというところです。

一番右のお写真（ディスプレイ表示資料）のほうは、宇治、城陽、久御山、八幡、京都市の消防団並びに水防団が集まり、梅雨のこの時期が始まる前に毎年訓練をしている、土のうを積んだりいろんな工法で水を抑えるという、写真のほうは土のうを積んでおるところになります。

続きまして、平常時のほうの活動になります。

上の写真（ディスプレイ表示資料）のほうは、駅前の街角で防火安全週間のビラを配っているところの写真になると思います。

次、左側の写真（ディスプレイ表示資料）、こちらは普通救命指導員の資格を持ちましたあさぎり分団の団員によります市民に向けた普及活動のほうの写真になります。

右のほうにあります子供さんが消防の服を着ている写真（ディスプレイ表示資料）なんですけれども、こちらのほうは、イベントに参加させていただき、子供さんのなりきり消防士の写真という形になります。

近年は、本当に全国のいろんなところで災害が発生しております。災害が発生したとき、地域住民同士の助け合いというのが人命救助並びに初期消火活動につながり、被害の軽減につながると思います。日頃より、消防団はいわゆる私たち地域に住んでる住民なので、地域に密着した活動をしております。また、その動員力の大きさ、地域の連携を持っておりますので、非常に災害があったときに重要な役割を果たすことができます。

最後になりました。現在、定足数 393 名に対して、現在員は 324 名の団員がおります。定足率 82% になっております。災害に強いまちの実現のために、消防団員定数確保に、今、一生懸命やっておるんですけれども、なかなか増えないというのが現状です。皆様には消防団活動のご理解とご支援をいただきまして、少しでも定足数に達しますようご助力いただければと思っております。

私の発表は以上になります。

■進行

ありがとうございました。

最後に、推薦者③様、推薦者④様、よろしくお願いいたします。

■推薦者③（ちょボラ本部）

今日は、あえていつも活動している服装で来させていただきました。みんなと一緒にやっているつもりで発表させていただきますので、よろしくお願いします。

今日のテーマは、災害に強いまちづくりということなんですけれども、私たちは、防災に特化しているわけでも、専門的知識があるわけでもありません。ただ、子供たちと地域の方々と、それから保護者の方々と一緒に何か楽しいことができひんかなと思って活動しているうちに、気がつけば、あれ、これって防災につながってるよねって、そんなお話を今日はさせていただきますので、お気軽に聞いてください。

■推薦者④（ちょボラ本部）

始まりはこのチラシ（ディスプレイ表示資料）でした。ちょっと見にくいですが、地元を楽しく探検しませんかと、生徒や地域の方に呼びかけました。探検していくと……。こんなかわいい秘密基地のような隠れ家的なかわいい本屋（ディスプレイ表示資料）も発見して、許波多神社の鳥居など、何か目立たない史跡も発見しました。本屋さんの中で、すごく隠れ家的な、生徒と一緒に楽しみました。

ほんで、そういえば、東宇治中学校のお隣は京都大学なんですけど、何か入ったことないよね、行ってみたいなのということを、生徒と私たちや地域の方々としゃべって、交渉してみると、何とまさかの京大見学ツアーが実現しました。前でしゃべっておられる教授の講義の受講や施設の見学、学食の体験もあったりして、老いも若きも大学生気分を味わえる一日となりました。

その後は、京大の研究施設、オープンラボラトリーでは、実際の災害を見立てた体験もしました。こうやって大雨のときの地下街ではすごい水の圧があるので、どないして歩かなとか、あと、車の中で閉じ込められたらどうするとか、すごくリアルな体験をさせていただくことができました。このいろんな体験を通して防災について考えるきっかけになりました。

そのときに、災害時にライフラインが停止しても温かい物とかおいしい物を食べたいよねと、生徒や地域の方としゃべりまして、宇治市の危機管理室の方や健康づくり推進課のご協力の下、パックスッキングという実習を行いました。これ（ディスプレイ表示資料）は、おにぎりを作ったりご飯をパックスッキングという作り方で作っている様子です。地域の方と中学生と一緒にやっております。

今、このチラシ、ちょっと見にくいんですけど、こんなおもしろそうな企画にも応募してみようということで、子供たちと宇治茶のお茶がらを使ったおにぎりなども、考えて作っております。防災にもですし、SDGsにもなってええなと、生徒や地域の方々と、おにぎりを作りながら、頬張りながら楽しく作りました。こんな感じでおにぎり、3種類の防災おにぎり3兄弟というネーミングをしたんですけど、こんなものも作っております。

その後、11月には、防災シンポジウムというものに参加もさせていただきました。つながることの大切さを、ステージ上で、中学生もそうですが地域の方一人一人が皆さん力強く発表させていただきました。松村市長や、教授、所長にもご試食をいただいたというシンポジウムになりました。

1か月後の12月には、校区内の東宇治中学の校区内に大和田地区というところがあるんですが、そこの防災訓練にも参加させていただいて、これ（ディスプレイ表示資料）は心臓マッサージですね、あと、これは簡易担架、おうちの毛布とか竿でつくる簡易担架をつくって、実際に人を運ぶとか、あと、中学生が消火器の体験をしたりして、いろんな地域の方とたくさんつながることができました。ありがとうございます。

このようにして身近な方々とつながることが、実際、防災にも、どんなことにも、つながることが大切なことだと本当に感じました。

■推薦者③（ちょボラ本部）

年度末には、振り返りお楽しみ会と題しまして、パックスッキングでケーキを作って、子供たちとみんなでわいわい食べながら一年を振り返りました。その中で、子供たちが言ってたんですけども、いろんな人とつながれたことがすごくよかったとか、自分たちがやってきたことをいろんなたくさんの人に聞いてもらえてうれしかった、来年ももっとこんな輪を広げていきたいなという声がたくさん聞けました。

コロナ禍を経て、少し人とのつながりが希薄になってきてるかなと感じています。でも、やっぱりつながるって大事だな、子供たちと地域の方々のほっこりするやり取りを見て

いて、本当に私たちも改めて教えてもらった気がしました。

シンポジウムでの発表や今日のこの話を聞いていただいた皆さんが、また、地域のほうに帰られて、こんなこと言うてはったでとかいうて話の輪を広げてもらったり、皆さん自身がいろんな方と楽しくつながっていただいて、そうすることが、きっといざというときに防災や防犯にも役立つんじゃないかなと思っています。

私たちも早速、今年度のまた新しいわくわくを企画中です。機会がありましたら、ぜひご参加いただけたらなと思っています。縁は切らずに結ぶものだと思っています。これからも皆さんとつながりの輪を広げていきたいと思っています。

今日はありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。

それでは、今、3組の方に発表もいただきました。活動報告もいただきました。また、皆様からのご意見もお聞きしたいと思います。

お時間のほうでございますが、11時5分までを意見交換とさせていただきますので、ご発言を希望される方は挙手をお願いいたします。

どうぞ。

■発言者①

今日のこういう会合を開いていただいて、大変、議員の皆さんには感謝しております。

早速ですけども、災害に強いまちづくりという点で、今、この間の少なくとも宇治市のやってるやり方というのは非常に問題があると思うので、議会で皆さんがどの程度そういう内容を追及していらっしゃるかを知りたいんです。

まず、1点として、今年は冒頭に、正月早々から能登の地震があったりして、大変、そこらじゅうで地震が起きてますね。だから、市民の災害に対する関心はとても強くて、私の住んでいるマンションでも、3月に消防職員に来てもらって話合いを持ったんです。ところが、その消防職員の方は真面目に現状をおっしゃってるんだけど、いざ震度7クラスが来たら、もう宇治市のこの辺は、中宇治関係はもたないよという話をされまして、特に宇治川が危ないとおっしゃいました。

要するに、天ヶ瀬ダムに私は何か問題があると思うんですけど、そこまで消防職員の方

はおっしゃらなかったけど、7、8年前にかなり水があふれたことがあったでしょう、宇治川で。そのときの状況からいえば、右岸と左岸の対策が物すごい大事やと。それから、万が一水があふれた場合には、私が住んでいるのは宇治橋に近いマンションなんですけれども、2階か3階まで水がつかるとおっしゃったんです。もう聞いていた住民はみんなびっくりして、そしてその上に、非常に強い揺れが来た場合には、まず、窓ガラスが割れても窓ガラスのかけらを踏まないようにしようとか、電気のブレーカーをすぐ下ろせとか、マンションのドアをすぐ開けなさいとか、そういうことをおっしゃったけれども、後、どういうふうにしたらいいかということは何もおっしゃらなかったんです。

逃げる所はと住民が聞いたら、ここら辺でいうたら菟道小学校なんですよ、菟道小学校と宇治中なんですよ。こんなところ、住民が行けるはずがないんです。菟道小学校なんてあんなきつい坂の上、うちのマンションにも子供たち、お年寄りがたくさんいますから、私だってよう行きません。

そういういっぱい問題点があるんです。消防職員の方は、そのことをきちっと事実はおっしゃったけれども、じゃ、後、どうするかという対策は何もおっしゃらなかった。だから、住民は聞いたけれども不満が残っただけなんです。こういう市民の実態を議員の皆さんがどう知っていらっしゃるかということ、それと、万が一震度7が来たときには、そういう想定で宇治市がちゃんと防災対策を立てているのか、どの程度なのか、議会でその辺を議員の皆さんはどう追及していらっしゃるのか知りたいんです。

それから、もう消防職員のことは言いましたけれども、避難場所については、この中宇治地域でいったら菟道小学校と宇治中なんて話にならないんですよ。絶対この地域に公共施設の避難場所が要るんです。そういうことを皆さんはどう考えていらっしゃるか、ご意見をお聞きしたい。

特に宇治川の問題では、左岸、右岸は危ないんだから、その辺はきちんと皆さんも国土交通省に申し入れたり、特に天ヶ瀬ダム周辺はいろんな断層が走ってるでしょう。そういうことを議員の皆さんは知ってらっしゃると思うけれども、きちんとそういうことを議会としても国土交通省あたりに申し入れて、そしてもっと市を、もう本当に今の市政をもっと追及するような姿勢に立っていらっしゃるかかどうかというところ、議員の皆さんとしての姿勢をお伺いしたいんです。

以上です。

■進行

ありがとうございます。

消防のほうともお話をされたということですが、なかなかお答えの中で、市民の皆さんが思っただけのような対策ができてないということを、今、お聞きをさせていただきました。

地域での取り組みなどについて、また、ほかにも何かご意見をいただきたいと思いますけれども、まずは、ちょっとすみません。順番に、多く手を挙げておられる方もおられますので、そちらのほう当てさせていただきたいと思います。

ほかご意見ございますでしょうか。

■発言者②

私は、伊勢田地域で防災活動に取り組んでおります。防災活動を行うためには、その地域の町内会・自治会の役割が大変大きいと痛感いたしております。

しかし、残念ながら、町内会・自治会の中には、脱会者が相次いだり、それから解散に追い込まれたりしているところもあります。町内会・自治会が無ければ、実際に何もできません。議員の皆さんの中には町内会・自治会の役員をされたりしてる方も多いたと思いますし、また、今、役員をされてなくても、町内会・自治会との関わりを深く持っておられる方も多くおられまして、町内会・自治会の実情については精通されてる方がほとんどだと思います。

その中で、その実情を市に政策提言をしていただきまして、町内会・自治会を重視する政策を実施していただくということをぜひお願いしたいと思います。町内会・自治会の分野というのは、産業・人権環境常任委員会の分野だとは思いますが、防災という視点から考えると総務常任委員会の分野でもありますので、よろしくお願いいたします。

この件について議員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

以上、ありがとうございます。

■進行

ありがとうございます。

ほかにご意見、お願いいたします。順番に。

■発言者③

ちょっと私の個人的な意見なんですけど、能登半島とか、それから神戸の地震の反省が全然現実に今になってないんですよ。私も、防災のことやというからちょっと寄せていただいたんですけども、実際、能登半島の地震を見てたら、そんな生ぬるいこと言うてたら自分の命守れませんよ。

それで、私、ちょっとメモして来ましてんけど、実際災害に遭われた方のお話を大分前に聞いたんですけど、これ、FMうじ放送で30分の番組でその人にしゃべってもろたことをずっと頭の中に残しておいたもんなんですけども、災害が発生したときの心構えをどうすればいいか。ほんで、3日間持ちこたえれば何とかなるのかというようなところ、それから、情報はどのようにして知り得るか。スマートフォン、今、はやってますけど、スマートフォンでも基地局がダウンしてしまったら使えないんですよ。それで、今、ラジオ、FMうじ放送がやってくれてはるのは、いつもラジオを横に置いてくれというスポットコマーシャルをやってはりますわね。

ほんで、ラジオは、今、出力10ワットやから聞きづらいという何か市民の声が出てるんですけども、いざ災害となったら100ワットにパワーアップできるということなんです。その代わり、それはFMうじ放送と違って、行政のほうに移るんやということで、ほんで、今の10ワットのパワーから100ワットのパワーにしたときに、どれくらいよく聞こえるかというのは私はよく分かるんですけども、一般市民の方にも一遍そういう100ワットでパワー出して、災害のときの情報を得る方法を得るからということを徹底してもらて、ほんで、それは総務省がなかなかうんと言わないんです。それを議会のほうから総務省のほう、電波管理局のほうに言うてもらて、一遍試験させてくれということでねじ込んでほしいんです。

ほんで、防災無線なんですけど、防災課の方にお聞きしたんですけど、和束とかその辺につけてあるけど、この辺ではあんまりないということで、せやけど、防災無線、雨降ったら聞こえないんです。そのときは何か必要かいうたら、やっぱりラジオとかに頼らざるを得ないんです。ほんで、先ほどの方おっしゃいましたけど、菟道小とかそんなところに行けへんの当たり前ですよ。行けませんよ。能登半島の状態見たらどないして行くの、宇治、震度7の来たらどうなるの、ねえ。

それから、天ヶ瀬ダム、横、側道、大きい水流すのをつけよって、あふれるようになったら、あそこ全壊しよったら宇治つかりますよ。私のところ辺でも、ハザードマップ見たら

10メートル水が来るんですよ。私のところは、家、一番上が10メートルなんですけど、全部つかってしまいます。ほんなら、そのときになったらどう逃げるねんということです。ほんなら、私は発電機とかそういう水とかは常に用意して、ご近所の方が来られたら使うてくれはったらいんですよという気持ちではいるんですけども、そんなもん、つかってしまたら発電機もくそも何もあらへん。

せやから、そういうことを具体的にどうされるかいうのを、今日聞きたかったから寄せていただいたんですよ。そやけど、そんな実際現実になような話ばかりしてもらったかて、こんな防災のこんな来てもろたかて、先ほどの方おっしゃったみたいに、水つかったらどうするのとか、そういうことですやろ。そやから、そういうことを議論してほしかったんです。聞きたかったんですよ。

ちょっときついことでわがまま言いましたけど、実際現実の話をしてるんですよ。家族の命は、やっぱり自分の命は自分で守って、自分の命より大事なのは家族の命やから、家族は家族の命を守らなあかんんですよ。それを、そういう場合どうしたらええかいうのは、逃げ道はこうやとか、ああいうところは防災無線こうしますわとか、防災無線でも、よその、四国のところに一遍行ったことあるねけども、5時になったら流さはるんですよ。いつも聞こえるように。ほんで、それをいつもずっと宇治市も流してもろて、ほんで聞こえるかいうことをアンケート取ってもうたりして、常日頃からそういうことをやっていただいたら、現実味を帯びてくると思うねんけども、そんな上辺だけの話してもうても何の役にも立ちませんよ。

すみません、偉そうなこと言うて。お願いしますね。せっかく議員さん来てくれてはるねんから、防災担当やったはるのやったら、もうちょっとしっかり仕事してよ。

■進行

ご意見としてお聞かせをいただきました。ありがとうございます。

ほかの方、よろしく願いいたします。順番に当ててさせていただきたいと思います。

■発言者④

防災のこと、今、南遊田というところで地下に大きな貯水槽を造る工事をしてるんですけども、もう本当に遅れに遅れに遅れてるんです。その説明というか、自治会の連合会のときに、議員さんが来られて言われたことが、私たちの認識とは違うことを言われたんです。

だから、議会できちっと話されてるのかなって、なぜ今、工事が止まってしまってるのかとか、それから工事の様子とか、そういう点を議会と市のほうときちっとして連携しているのかなというのが一つ疑問に思ったことがあるんですけども、それと、それから、水のことが私もすごく心配で、西小倉小学校に運動場の周りに高くへりを造って、そこに大雨が降ったときは水をためるということをしてるんですけども、でも、実際問題、その量なんてすごくしれているし、それから、ちょうど雨が降った後に選挙があって、投票に行ったら、もう運動場が水浸しだから、入れへん。それで、反対のほうの、南門と北門があるんですけども、違うほうの門から入らざるを得なかったけど、何であんなことするのと言ってはったんですけどね。だから、運動場に水をためて貯水槽にするというのは、あかんのじゃないかと私は思っているんです。どういうふうに議員さんたちは思っておられるのかなと、そのことについて。

それから、今、小中一貫校を西小倉では造っているんで、その地下に貯水槽を造ったらどうかなと、私。よそはそうしますよね、伊勢田小学校とかそういう工事をしたりして。だから、地下に一気に水が出たときの貯水槽を造って、徐々に流していくようなのを考えてもらえないかなというふうに思っています。とにかく私たちの地域は、危ないなというときは、普通、側溝というか大きな、ありますよね、側溝が。逆流するんです、水が。そのときは危ないなと判断しています。

それから、井川の水なんかも、大雨が降ったら一気にもうあつという間に増えます。けども、雨が止まったらあつという間に減ります。もう本当に50センチぐらいはあつという間だなというのを、通るたびに見かけてしまって、一気に増えるときを何とかしたら水害ってかなり減るんじゃないかなというふうに思っているんで、もう少し、議員さんたち、地域のことというか、しっかり見てほしいなというふうに思っています。

■発言者⑤

今、小中一貫校の関係でいろいろ悩んでることがあるんですが、4つの学校が一つになるということで、避難場所が当然減るわけです。新しくできる学校が、言うたら、地域の防災の拠点になるということだと思えるんですが、ただ、これが地震であれ水害であれ、そこに避難をした人の命を守るという場所でなかったらあかんわけですね。

ところが、体育館は冷暖房が効くというふうになるそうなんです、冷暖房が効くにしても、電源がなかったらあかんわけですよ。この電源は、少々の発電機では駄目なんで

す。まして新しい学校はエレベーターもあるわけですから、そういった中で、学校の電源を確保できるような自家発電装置をつけてほしいというのは、地元からいろいろ意見が出ています。これからできるわけですから、金を使ったら命も守れるし、地域の人の避難場所に、やっぱり大事なところになると思うので、そういったことをどうしてもこの議会のほうでも取り上げてほしいと。

これは、西小倉とは言いますけれども、西小倉だけの問題と違って、やっぱり災害対策ということで必要な予算は組んでいただきたいというふうに思うので、ぜひともご協力をお願いしたいと思います。

以上です。

■発言者⑥

西小倉は、宇治市の北西の角ということで、一番端っこのほうなんですけど、私が今、まず心配してるのは、天ヶ瀬ダムが決壊したら一体どうなるんやというのを一番心配しております。

そもそも私が家を買ったのも、天ヶ瀬ダムができたから安心だということで買ってるんですけど、今、逆にそういう天ヶ瀬ダムが心配だなということで、地域の活動として連合自治会を通して、宇治市から、宇治川が決壊した場合の浸水の高さ、浸水の深さはこれぐらいになりますよというのはいただいているんです。それで、その一番北のほうの蓮池では約7メートル浸水しますと。私が住んでる砂田の辺りでは4メートルぐらい浸水するということになるわけです。

それで、私が心配してるのは、天ヶ瀬ダムが崩壊したらそんなもんで済まないなと思いますので、今まさにそういうことを見直すようなタイミングなんじゃないかと。能登の地震なんかで、京都市でも想定される地震の震度を7に上げております。宇治市は、今、6ということで想定してるわけなんですけど、それで、もう一つの動きとしては、久御山町が宇治川の左岸に3ヘクタールの高さ7メートルの避難地域を設置するというので、今日の京都新聞に載っております。そういうことをやり始めておりますので、宇治市としては、やや出遅れと言うたらたおかしいですけど、これから、やるべきことはいろいろあるかなと思っております。

私の自治会では、自主防災会で避難支援ということを取り組んでいます。宇治市で水害が発生した場合の避難場所は、小倉小学校ですというふうに聞いておりますので、その小

倉小學校に避難できるようにという活動をやっております。私も避難支援班の一員としてやっております、宇治市から、高齢者等避難情報といいますか、高齢の人は早めに避難してくださいよという指示というか、連絡が来ます。それが来たら、私たちがやってるのは、約70名近い人、その中身は、宇治市に災害のときに助けてくださいという依頼をし、登録されてる方が30名余り私たちの自治会ではおられます。それから、65歳以上で独り暮らしの方が30名余りおられまして、そういう人達に対して、まず、宇治市から高齢者の方は早く避難してくださいよという連絡を入れると。その中で、足も悪い、車も持っていない、どうしようもないから連れてってくださいという人に対しては、地域のボランティアが自分の車を運転して西小倉小學校まで連れていくということをやっております。

それから、毎年11月の初めに自主防災会の避難訓練ということで、この避難訓練のときには、消防署からも、先ほど紹介ありましたあさぎり分団の方なども含めて、防災訓練をいろいろやって、宇治市からもいろんな協力をいただいております。ただ、ちょっと問題だと思うのは、やはり宇治市に助けてくださいと登録されてるんですけど、結果的にはやはりそれぞれの自治会で対応せざるを得ないということです。それと、避難地域の小學校まで運転するボランティアの運転手もだんだん高齢化してきますので、運転手自身も避難せんなんような状態なので、そういうふうなことがあります。いろいろやっていたんですが、いろいろ問題点はあります。

それで、一つ提案といいますか、天ヶ瀬ダムが決壊したらどれぐらい水つきになるんだということが知りたいんです。恐らく6メートルぐらいの浸水では済まないと思うんです。

それと、多摩川で以前に池が崩壊してえらいことになったというのがありますので、新しい浸水予想の可能性もあると。だから、一つは、地震の予想震度を7に上げて、それに対してひょっとして天ヶ瀬ダムが壊れたらどうなるかと、そういうことに対して宇治市としてはどうするか、各自治連合会や自治会はどういうことをすればいいのかということを確認にさせていただいたら、地域の住民もやれることはやるということで、動きやすいと思うんです。ですから、ぜひそういうことを宇治市で検討していただきたいというふうに思っております。

以上です。

■進行

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

■発言者⑦

いくつかあるんですけど、まず一つ、ちょっと心配なこと、今お話聞いてた中で心配やったことが、さっきのICTのことでしたっけ、推薦者①さんの、そのマネタイズの方法を、民間に情報を売って、出すというお話やったんですけど、それはちょっといくら何でもないかなというのは思いました。市民の情報を集めるというのは、言ったら、市の権力の中でやれてしまうことなので、情報を渡すことは不可避なんですよ。そういう、情報を売ってマネタイズされるのは、私企業でなさってください。それが一つ気になったところですよ。

それと、今、セキュリティークリアランスとかそういう法律も通ってるぐらいですので、情報の取り扱いについてはもうちょっと意識を高めていただきたいなと思いました。

それと、先ほどの話も出てました西小倉小中一貫校のことで、私はいつも頭とか胸とか痛めていろいろお話を聞いているんですけど、お話を聞きながら、その進捗を見てるんですけども、災害のことにつきましても、今までちょっといろいろ申し上げてることなんですけども、学校の遊具を防災釜とかそういうのにしたり、今度の南小倉の小学校の土地を売却するという話でも、公園は造ると、そういうことは一部ちょっと言われてるところもあるんですが、そこを消防の車両とかが置けるぐらいの見晴らしがいい広いところ、場所が絶対に必要やと思うんです。ましてや西小倉小中一貫校につきましては、現中学校の中で950人ほどの生徒を集めるので、建物がすごく大きいので、グラウンドも取れないと、もう最低限しか取れてない状況の中で、そういう緊急車両とかそういうものが入る余地も、ましてや職員の人が止める車を置く駐車場を確保することすらままならない状況なんです。その中で、どうやってこういう緊急時に、災害があったときに大量の車両が入るような場所があるのでしょうかというのは、私はいつも心配してる場所なんです。

それと、やっぱり見晴らしのいいところがないと、市民の避難場所、取りあえずの避難場所というのは、やっぱり上にも横にも何もない広いところが要ると思うんです。そこはやっぱり最低限の確保をしていただきたいので、それと、子供たちのふだんのボールを蹴るところがないというのは物すごいテーマなんですよ、私たち母親にとって。うちの前でちょっとボール蹴っていいかと言うんですけど、いや、どこ行こうと。小学校低学年の子が、西小倉小学校の前のところ、前の危ないところを回って行くこともできないし、ちょ

っとボールを蹴ることすらままならないという、そういう地域があるというのはちょっと問題かなというのは思ってます。

それと、小中一貫校の耐震が震度6ということで、それは一体どういうことですかと。今、京都新聞で出てたんですけど、震度6プラス、南海トラフ地震発生時の全国と京滋の震度分布想定というので震度6プラスと出てるんですが、そのぎりぎりの想定、それを、どうしてですかと聞いたら、それ大丈夫なんですかと聞いたら、市の方にお伺いしたら、震度6とは防災のレベルとしては考えてますが、震度6で壊れるとは言ってないですという話やったんです。あまりにもちょっと見通しが甘いといえますか、もう50年100年仕事という大金をかけて建設するものなので、もっと強固に造ってもらいたいです。それと、大規模な発電施設というのを私もずっとお願いしてるんですが、太陽光パネルも立てるということになってるんですが、それにつきましても、太陽光パネルの発火が今あちこちで聞いているんですが、そのことについて対応をどうされるんですかと消防の方に聞きましたところ、つまるところの出たところ勝負という話でした。はい、と言われました。

どうされるんですかと聞いたら、立ち入れないと聞いたんですが、1時間ほど、そういうのもそういう事例を聞いているんですがと聞いたら、今のところ宇治ではそういう事実はないですが、発火の現象の火災はないのですが、出たところ勝負というふうなことです。太陽光パネルはもういらないと思います。それで太陽光パネルいくらするんですかと聞いたところ、何千万ということでした。そのお金を、太陽光パネルちょっとでいいですよと言って、もう太陽光、そんなやりたいんやったら、もうちょっとにしてください。そのお金を、冷房を回せるぐらいの発電機に充ててほしいんですというのを、今、お願いしてる場所なので、こういう場をもってお伝えさせていただきたいなと思いました。よろしくお願いします。

■進行

そろそろお時間なんですけれども、あと何人ぐらいの方おられますでしょうか。5名の方がおられますので、ですので、少し短めに、申し訳ございません、お時間切ってまいりますので、お願いいたします。

■発言者⑧

1つは、避難所なんですけど、避難所のところは防災マップには書かれたり、広報でも

出てるんですけど、実際自分が住んでるところの避難所はどこなのかというのが明確にすべきではないかなと。それと、住民の皆さんに徹底するのと、避難訓練とかも併せて、そういうようなところに、日常的にやっぱり避難所を確認して、経路についても明確にしていったほうが安全のためにも重要かなと思うんです。

僕ところの西中の地域は、3川の宇治川と、それから堂ノ川と、それから山科川と、三川に囲まれて、それに木幡池があって、井鉢の底のような地域です。そういう意味では非常に厳しいところで、十数年前から防災会をつくって、交通誘導班とか、炊き出し班とか、消火班とか、救助班とか、それぞれ班ごとに編成をして、17名ぐらいで、今、活動しています。他の地域でもやってると思いますが、1年に1度、避難訓練をやったり講習会を開いたり、訓練を繰り返しています。

その点が一つと、もう一つは、3メートルから5メートル、5メートルを超える浸水が予想されるので、1階部分が水没しますので、1階の居住の方は3階以上に避難をする水害時避難パートナーシップ制度を今つくりまして、3階以上に協力を得て、お部屋に緊急に避難するということで、なかなかやってみたら大変でしたけど、ペットとか、それから、男性独り暮らしの方とかもいたり、それから高齢者の方だけのお宅もありまして、そういう意味では、そこを受け入れてもらう協力を得るのはなかなか苦労が要りましたが、もうそれも5年以上、今、制度を運用しています。

それから、3点目は、洪水浸水想定区域ということで、くらしの便利帳は非常に役に立って、令和5年、6年が最近のやつですけど、問題は、自分の居住の場所がどこに位置しているのかというのが分かりにくいということで、もうちょっと工夫をしていただいて、今、公共の建物だけしか明示されていないんですけど、マンションとかコンビニとか、目標物をもっと明確にして、洪水の場合はどれぐらいの危険の地域なのかというのがもっと明確に分かるように、ぜひ改善をお願いしたいと思います。

以上です。すみません。

■発言者⑨

私がお聞きしたいのは、ちょっといろいろあるんですけども、議員の方に、災害対策も含めてなんですけれども、どうやって自分たちの思いとか声というのを伝えていけるのかなというのをお聞きしたいなというふうに思っているんです。こういう機会を設けていただけるのはすごくありがたくて、直接お伺いできるいい機会なんですけれども、私たち

は西小倉地域に住んでますので、今、小中一貫校のことですごく地域が揺れているんです。

跡地問題についても、防災の観点もありますし、子供たちの遊び場という観点からも、やっぱりすぐに結論を出さずに、跡地は議論した後に決めてほしいという請願を、昨年末に3,000筆近く集めて出したんですけども、この総務委員会で、市議会だよりも書いてあるとおり、反対多数ということで取り上げていただけなかったりして、となってくると、私たちの思いというのは、災害に対してもそうですし、跡地に対してもそうなんですけれども、どうやって伝えていったらいいのかなというのをぜひこの場でお聞きしたいです。

以上です。

■ 発言者⑩

私は、大和田区という、先ほど発言者⑥さんのほうから案内ありました防災訓練も、もうここ十何年やっております。消防団の方にもあさぎり団の方にも来ていただいて、毎年のごとくやっておりますが、一番問題は、災害が起きたとき、地域によって違います。水害があったり、土砂崩れ、その場所場所によって違うので、そこをきちんと、この場所は水害が多いところ、この場所は山崩れ、そういう地面が弱いですとかいうのははっきり明確にされてないので、私たちはどのような防災訓練を実施していいのか、ありきたりな実地訓練を毎年やってるので、何の進展もなく、それで、高齢化もされてますので、自治会がすること、市がすることをやはり明確にさせていただいて、それを基に私たちもやっていきたいなとは思っておりますが、そういうものが議会の中では話し合われてるのかどうかというのが、私たちには表立って出てきていません。

まず、議会で何をしてるかというよりも、もっと議会で今やってることを発信する。ただアプリで見る、ユーチューブで見るということは、高齢者の方はほとんどありません。アプリで見てください。今回、私ここに出席したときも申し込みをしました。それが出席していいののかも分からなく、私、電話をかけさせていただきました。それは大丈夫です、ちゃんと登録されてますから来てくださって、おかしいですよ。一応、最初の申し込みがあったときでも、もし人数が多ければという話があったのに何も連絡がなく、いや、これ行っていいものかどうかということもありませんでしたし、発信するというのが議員さんたちの仕事だと私は思っております。

議員さんたちが仕事をしてないとかじゃなくて、議員さんたちは必ずしてはると思いま

す。それを、やはり私たちが分かるように発信していただいき、地域ごとの災害の違いというのも明確にして、市がすること、自治会がすること、個々がすることを明確にしていったら、よりよい本当に災害に強い宇治市がつかれるのではないかと私は考えておりますので、そのことをご検討いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

■ 発言者⑪

防災と消防についてちょっとお聞きしたいんですけど、宇治市には、地域地域によって、災害起こった場合、備蓄はどこでどのようになっているのか、こういうのが、宇治市民としてそういうことが全然伝わってこないんですけど、そういうことは、能登半島地震が起って非常に大事やと思います。

それと、宇治市は、基本的に職員と、それと救急車が1台ほど足らないと聞いております。そして、消防署職員も非常に少なく、30名以上も少ないと言っておりますから、だから、そういう基盤的なものはきちんとやっぱりお金を出す必要が僕はあると思います。だから、そこら辺はやっぱりきちんと基本的なものはやらなければいけないと思います。

それから、御蔵山小学校の裏側に空いた土地があるんですけど、今までいろんな要求はしてるんですけど、この要求なんですけど、そこに備蓄をできるような建物を建ててほしい、そういうことを皆言っておりますので、要求しておきたいと思います。

そして、御蔵山地域が道路が非常に悪いんです。自治会の力の関係で、側溝なんかをどんどん進んでおりますけど、非常に遅れております。そういう関係で、道路が非常にアスファルトがめくれてもうて、石ころが出てきてるような所が非常に多くて、歩くのにも非常に危ないし、そこら辺も、やっぱり防災も非常に大きな問題もありますし、そういう点はやっぱり道路関係なんかはきちんと整備をして、道路と歩道がやっぱり一体化してちゃんと歩けるようにしないと、ほんで、今の御蔵山地域に住んでる人は、歩道が歩けなくて道路を歩いてるような人も結構おりますので、やっぱり段差をなくした歩道を造るというようなことは非常に大事かと思っておりますので、議員の人はいろんな力を出し合ってやっていただきたいと思います。

以上です。

■ 発言者⑫

400年前にできた堤左岸の下に住んでます。江戸時代から先祖は住んでるんですが、

災害には何遍も遭ってます。

今日、皆さん、時間は無限にあります、このいつとき皆さんとお顔を合わせて大変うれしく思ってます。なぜならば、大きい声では言いませんが、小さい声で言います。ここへ来た人は、震度6の地震が起こっても絶対に生きておられる方です。なぜならば、心は違います。ここへ来る人、18万人いてたかだか三十数名。絶対に生きてます。心配ありません、皆さん、どうかこのつどいが、震度6の地震の起こった後に、起こったときに、皆さん、顔を合わせましょう。絶対に生きてます。経験と勘と度胸しかありませんけども、なぜならば、今までのお話聞いてたら、非常に行政の心配、市議会に対する心配、市民の心配、いっぱい持っておられますけど、そういう心があるということは絶対に生きてると、私は信じています。

災害は、忘れず、必ず来ます。次回、震度6の起こった後、皆さんと顔を合わすのを楽しみにしてますので、ぜひとも市議会の皆さん、つどいを続けていただきたいと思います。行政に対する不満をいろいろお聞きしましたけども、市議会は、それで解決する一つの道は持ってますので、私は希望を持っていますので、その皆さん方の力強いお話を、議会で行政に進むようにご努力を賜りたいと思います。今日はこの機会を持っていただきまして大変ありがとうございます。

なお、最後に一言ですが、第1回目も私、参加して、いろいろお話ししましたが、市長が替わり市議会議員も替わりましたが、残念なことに私の言ったことは何にも解決できてないです。ただただそれが残念でなりません。でも、皆さん、震度6以上の後に、先ほど言ったように、ぜひとも皆さん、会いましょう。皆さんは生きておられます。心配ありません。よろしく。

■進行

ありがとうございました。

それでは、少しお時間も過ぎてしまいましたが、最後に、ご意見を、お1人の方いただいております。こちらにご参加にはならないということですが、ご意見だけを頂戴いたしておりますので、ご紹介をさせていただきたいと思います。

災害に強い宇治市を望みます。当方は、東地区にある協議会です。災害に関しては、水害ではなく地震です。以前、防災講習会でお呼びした先生のお話では、この辺は水害の心配はないが、地震は30年以内に起こる確率が高いそうです。

もし地震が起きれば、町民2,300名の避難場所がありません。宇治市は、自主防災会の立ち上げが京都府の中でも遅く、災害が起こったときは、自治会同士の連携、連帯が心配です。よく言う当方も、いまだ自主防災会は立ち上がっていません。

お願いですが、学区単位の避難訓練を早急に実施してほしいと思います。そうすることによって、自治会単位で自主防災会が早急に立ち上がり、避難時の連帯が深まり、助け合いの連携がスムーズにいくと思いますというご意見を頂戴いたしております。

皆様からのご意見を、今、聞かせていただきまして、やはり自治会単位での一つの集まりとしてどう考えていくのか、また、災害が地震によるものなのか、また、水害によるものなのか、地域によっても様々な違いということがあることなどにより、やはり地域の現状に合った、避難場所へ行くに当たっても実際どうすればよいのかという、個々に対しての避難の訓練などについてもご心配をされているということがよく分かりました。ありがとうございました。

それでは、各委員より発言をお願いしたいと思います。

西川友康委員、お願いいたします。

■西川 友康 総務常任委員会委員

どうも皆さん、本当に貴重なご意見ありがとうございました。また、推薦者の方々、それぞれの活動の発表等ありがとうございます。

特に、推薦者③様、推薦者④様については、スライドにもありましたように、私も11月のシンポジウムでも参加させてもらいましたけれども、私も子供がおりまして、宇治市内の学校におります。そういったところ、コミュニティスクールでそういった取り組みをされているところ、各中学校でも、ほかの学校でもそういう取り組みでいろいろなことができればなというふうに感じております。本当に貴重な体験のところ、お話しいただきましてありがとうございました。

また、本日お越しいただいた皆様方にも、本当に多くのご意見いただきました。やはり能登半島の地震があったということで、それぞれの地域で、地震や水害等の対策でやはりまだまだ不満があるということで、本日いただいたご意見を、やっぱり我々も各地域で災害の取り組みもしております。そういった中で、まだまだ災害に対する取り組みというのは不十分かというふうには思っておりますので、そういった中で、宇治をもっと災害に強いまちづくりにしていくため、市議会でも、議会の発言等、一般質問でもさせてもらいな

がら、よりよい災害に強い宇治市もつくっていきたいと思いますし、また、自治会・町内会の取り組みというのも非常に重要でありますし、皆様方でも地域の取り組みをされているということで、私もさせていただいておりますけれども、そういった自治会の取り組みもしっかりとしていけるようなことも、しっかりとしていければなと思います。

なかなか個々の質問にはお答えできてないかと思いますが、そういった形で本日いただいた皆様のご意見を基に、よりよい災害に強いまちづくりをこれからも進めていきたいと思いますので、本日はどうもありがとうございました。

■進行

坂本委員、よろしくお願いいたします。

■坂本 優子 総務常任委員会委員

今日は本当にありがとうございます。お叱りのお声もたくさんいただいたんですが、そのとおりだろうなと思っております。

災害なんかは、特に、自助・共助・公助ということが言われるんですが、自助・共助、これをやっぱりちゃんと育てて支援していくのが公助だと思って、今日お聞きしてても痛感をいたしました。

先ほど委員長の方から、協議会の方のご意見が出されていましたが、すごく早く防災会を立ち上げて年に1回は訓練している、問題点を改善するという取り組みをしている地域がある一方で、まだ、防災会が立ち上がらない、自主的な避難の経路が分からない、いろんなやっぱりすごく差があるかなと思っているんです。

それで、校区単位でやっぱり避難訓練をやっていって、どれだけの方が参加されるかわかりませんが、そうした取り組みをする中で、この地域ではこういう問題があるねということを、やっぱり自分たちが把握して改善をしていくような、そうしたことも大事ななというふうに思いました。

以前に、線状降雨帯で、この気候危機の中で、温暖化の中で、線状降雨帯の発生で、岡山の地域で物すごい水害が起こって、橋や家屋が流されるという大変な被害が出たんですが、私はそこはどうやって立ち上がるんだろうなと思っていたら、やっぱりその地域は、ふだんのコミュニケーション、つながり、公民館を中心として、そうしたつながりをつくっていく中で、こういう本当に困難なときにお互いに助け合って、その復興を助けてい

たということを地域の方からもいろいろとお聞きして、やっぱりこれが大事やなと、日頃のことが大事やなということを痛感しています。

議員としても、皆さんからいただいたご意見をやっぱりちゃんと実現の方向に向けていくように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

■進行

関谷委員、お願いいたします。

■関谷 智子 総務常任委員会委員

今日はありがとうございました。

皆さんからお叱りの声をいただいたり、また、やはり情報がうまく発信できていないということも大きな問題かなというふうに思いましたし、また、総務常任委員会といたしましても、先月でしたか、京大の先生に来ていただいて、今、頻繁に地震が起こっておりますので、この宇治市はどうなんだろうということでも勉強会もさせていただいたところでもございます。

また、国といたしましても、今お話ありました線状降水帯のことが、今まで地方に発表されていたけれども、今回、また各都道府県単位でというふうなことになるというふうな、より分かりやすい形での発表をするというふうなことですとか、また、気象予報と防災とがもっとコラボをしていくと、そういう国での動きもあるというふうなことも聞いております。

また、自助・共助・公助の話がありましたが、いざというときに公的な救助というのが、3日間はやはり自主的にやっていたらいいかなと、なかなかそこまで手が回らないというのが現状でもございますので、その3日間をどうしていくのかというのは、やはり各ご家庭や各地域で取り組んでいかなければならないのかなというふうに思っております。

また、能登半島の地震災害で、まだ断水してるところがまだまだあるというふうなことから、やはりお水の問題ですね、トイレの問題で、今、まだまだ大変だということで、私の住んでおります自治会も、やはり町内会離れというのがありまして、でも本当に、自主防災、防災関係でもっとつながっていかないといけないよねというのを、今、取り組もうとしている中で、防災備蓄を、市でも危機管理のほうでも防災備品についての補助金制度とかいうのがありますから、もっとそういうことを活用しながら、例えばトイレの凝固剤、

それを備蓄することを皆さんに発信をしながらとか、そういうふうな形で、身近なところからやっていきたいというのが、今、私が取り組んでいるんですが、先ほどの要配慮者の方々の吸い上げ、そういうのもやはり地域でしていかないとなかなか駄目なのかなと、そのところも、今、取り組もうとしているところでございます。

また、しっかりと、私たちがやらせていただいていることを皆さんのご意見もお聞きしながら行政にも届けておりますし、また、それをお返りするような発信もしっかりとしていきたいというふうに思っております。

今日はありがとうございました。

■進行

金ヶ崎委員、お願いいたします。

■金ヶ崎 秀明 総務常任委員会委員

推薦委員の皆さん、市民の皆さん、このたびはご参加、本当にありがとうございました。

貴重な意見をたくさんいただきまして、大変、我々もこれから議会で審議していくということの重要性を改めて再認識しております。

アナログ的な部分でいいますと、防災無線のお話もあったと思うんですけども、令和6年度におきましては拡声機の設計計画予算も計上されました。あと、ハード的な部門でいきますと、木幡池の排水機能の向上で、大島排水機場の工事がなかなか進まなかったんですけども、令和6年度、ようやくその工事のスタートが切れるようなめどもついております。

ご意見として貴重な意見をいただいたのが、やはり公共施設の避難場所をもう少し近い場所にしてほしい、増やしてほしいということもございました。ご意見もありますとおり、物資の備蓄の状況とか場所とか、避難場所、ルートについてももっともっと分かりやすくしてほしいというところで、やはりそういうアナログな部門と、これからデジタル化によって便利な部門を、両面取り組んでいく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。

危険な地域に避難場所が指定されていた場合、瞬時に、やはりアプリ、デジタルによって、グーグルマップではないですけども、安全なルートを皆様にお知らせできるようなそういうツールも用意していかなければならないし、あと、町内会の加入率が大変減ってお

ります。特に若い皆さんがほとんど町内会に入っていただけません。そういう若い皆さんに、自治会、そして防災会、こういう地域の皆さんがつながることはこういうメリットがあるんやということを、やはりそういうツール、アプリ、そしていろんなアナログ的な取り組みも含めまして、やはり防災意識を、市民の皆さん、我々議会、行政、一つになって意識の向上をしていくということに、今後つなげていきたいなというふうに再認識させていただきました。

今後、議会議論でも、しっかり皆さんからいただいた、今日、貴重な意見を、一般質問、委員会、いろんな予算委員会、決算委員会がございます。そこで述べて、皆さんの意見の代弁をしっかりさせていただきたいなというふうに決意しておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

■進行

佐々木委員、お願いいたします。

■佐々木 真由美 総務常任委員会委員

皆さん、ありがとうございました。それから、貴重な意見をありがとうございました。

何かちょっと胸が詰まってくるというか、私は、一番、どうやったら市民の声を伝えることができるんですかとおっしゃった。やっぱり請願を出しても、反対ではなくても市民の話をもっと聞いてほしいという請願でしたよね。それを参考人としてお話ししてるのもお聞きしてましたし、公民館についてもそうでしたよね。やっぱりもっと市民の声を聞いてほしい、それから、納得するような説明が欲しい。なかなかそこに対しては市は応えてるのかなという思いがすごいしておりました。

今日も様々な意見をお聞きしてまして、地域のことを一番よく知ってるのはやっぱり地域の方なんだなということは、本当に実感しております。やっぱり行政にしても、議員も28人しかいませんので、なかなか隅々まで知ることはできない。先ほど言ってたように、選挙の日に投票に行こうと思ったら、運動場が水浸しで通れなかったとか、何かそういうことを一つ一つできることを本当にやっていくことが、地域を暮らしやすい、そういうまちにしていくんだな、そして、そういう声を届けて改善できたという成功体験を積み重ねていくことで、市民の方も、市に対する信頼であったり議会に対する信頼であったり、何

か市のことに関心を持って見ていただくことにつながっていくんだなというのを、すごく感じながら聞かせていただきました。

私も町内会のほうに関わってまして、非常に高齢者の多いところでもありますし、いざとなったらこれどこへ逃げようという、本当に菟道小学校、高い、あんな坂は上れないよねということで、市のほうの出前講座とかも活用しまして、具体的にここで危ないのはどういうことですかということとか、やはり地域地域全く違うからこそ、自分が今住んでるところはどうなんだろうということは、そこは、行政を使い倒してしっかりと情報を入れながら、それを基に、ちょボラの活動のように、大人だけではなくて子供も巻き込んでいく、何かそこへ、地域がつながっていくそのハブになるのが防災ということなんかなというのを、私は感じております。

何かもうこの場で本当に答えが欲しいという思いで来られた方には申し訳ないんですけども、皆さんからお聞きしたことは、しっかり議員も聞いてますし、今日、執行部の担当課の関連の方も来ていますので、こういう機会にはまたどうぞ足をお運びください。ありがとうございました。

■進行

西川副委員長、お願いいたします。

■西川 康史 総務常任委員会副委員長

本日は、推薦者の皆様、本当に忙しいときに来ていただきまして、ありがとうございました。また、市民の皆様にも、お忙しい中、足をお運びいただきまして、本当にありがとうございます。

先ほど推薦者①様からお話がありましたように、災害は死なないことが大変重要だということをお聞きしまして、私も本当にそのように思っております。自助ということ、まずそれが一番大事であろうと。その後、やっぱり市のほうのいろいろな援助が必要なんじゃないかなと思いますし、やっぱり自分の身は自分で守るところから始めていかなければいけないんじゃないかなというふうには思っております。

ただ、宇治市の役割として、市民の安全・安心を守るために、しっかりと議会でも意見を交わしながら進めてまいりたいというふうには思っております。

私自身は、ここにおられる推薦者②さんと共に消防団で活動してまいりました。そのと

きにいろいろなことを学びましたし、今、消防団の人数、人員不足ということについても、非常に懸念しておりますし、やっぱり消防意識を高めるためにも、消防団に入ってもらい、皆さんここに来ておられる方は、かなり災害に対しての意識が高いんじゃないかなというふうに思いますので、お知り合いの方、特に若い方を消防団にお誘いいただいて、宇治市の未来の安心・安全を守るために取り組みをしていただけたらなというふうに思っております。

それから、神戸の震災の後、多くの地震があちこちで、熊本とかでもありましたけれども、それ以降、やっぱりこの前の能登半島の地震においては、もうその日のうちに消防職員が現場に派遣されて、すぐに対応するというふうに、かなり早い初期の行動が取れるようになりました。これは国や府との連携だというふうには思いますけれども、そういった取り組みも、少しずつではありますけれども、進んでいってるように思っております。

市民の皆様の思いが、完全にというか、少しでもというか、進めていけたらいいと思うんですけど、まだまだ足りないというふうに思っておりますので、私も、今後、この議会を通じて、防災に関してしっかりと進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

■進行

本日は多くのご意見をありがとうございました。また、推薦者の皆様、今日までご準備もいただきましてありがとうございました。

委員会ごとの開催を、市民と議会のつどい、させていただいておりますが、今お聞きしましたご意見も、災害、防災につながることでございます。7名の総務常任委員の議員だけではなく、広く28名の議員に共有をして、今後とも議会としても考えてまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

進行にご協力をいただきましてありがとうございました。

4. 閉会挨拶

■徳永 未来 広報委員会副委員長

宇治市議会広報委員会副委員長の徳永未来です。

本日ご参加いただきました市民の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございます。

本日の内容は、後日、ホームページなどでご報告させていただきます。

よろしければ、お手元にありますアンケートのご協力をお願いいたします。ご記入の後、アンケート用紙と鉛筆はそのまま机の上に置いてお帰りください。

以上をもちまして、第8回市民と議会のつどい、総務常任委員会の部を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。